

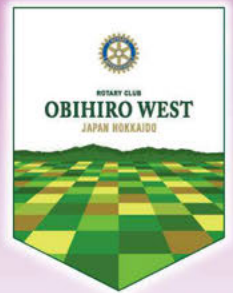


帯広西ロータリークラブ

第2418回例会

会報

2023.2.2



■RI第2500地区スローガン■

ともに紡ごう！
ロータリーの未来へ

■クラブ・テーマ■

新たな半世紀に向かって…RESTART

ゲスト紹介

RI第2500地区第6分区ガバナー補佐

	松原光一様
IM実行委員長	関口亘様
ガバナー補佐セクレタリー	曾我浩昌様

米山記念奨学生

モハメド、イスラエ
モハメド アリ様

2月誕生祝

田中 利昭	会員	1952.2.17
江口 文隆	会員	1956.2.18
小谷 典之	会員	1962.2.20
萱場 誠一	会員	1963.2.10
河合 敏	会員	1963.2.10



2月結婚祝

横山 明美	会員	1971.2. 3
古田 敦則	会員	1988.2.14
飯田 正行	会員	1989.2.11
北川 勝啓	会員	1993.2.28
朴 昌人	会員	1996.2. 8

乾杯

山本 範之 会員

1月の誕生日に70歳となり、70代の新入りとなった山本です。菊池委員長から指名を受けましたので、乾杯の音頭を取らせていただきます。2月誕生祝い5名、結婚祝い5名の皆さん、おめでとうございます。2月生まれの基本的性格2月生まれの方は、独創性とユーモアのセンスにあふれ、価値観や目的意識が独特であり、とても個性的な性格となります。洞察力と直観力が卓越しているため、周囲が気づかない細かい部分にも配慮ができます。また、発想力や想像力が豊かなため、人として魅力的な人が多く、気がつけば性別問わず多くの人に慕われます。人とは変わった考え方をする人が多く、普通を嫌い、変化を好む独特な性格でもあります。そのため、周囲からは「変わった人」という印象を持たれることも多くなりますが、それが周囲から慕われる魅力でもあります。ほめ殺しみたくない内容になっていますが、2月生まれの方々は如何でしょうか。2月生まれのたくさんの偉人から本日の2月生まれの方々に、メッセージを依頼されて



おりますので、お二人披露させていただきます。2月8日生まれマルチン・ブーバー（哲学者）「始めることさえ忘れなければ、人はいつまでも若くある」2月9日生まれ夏目漱石（作家）「貴方が今までまく種は、やがてあなたの未来となって現れる」2月結婚祝いの方々には、諺を用意しました。イギリスでは、「良き妻と健康は、男性にとって最高の財産である」という諺があり、年齢を重ねるごとに、妻と健康のありがみを意識するようになるという意味になっています。皆さんはいかがでしょう。2月結婚祝いの方々は、「奥様に対する奉仕月間」として奥様に対してありがたみを感じ、大事にして頂きたいと思います。誕生祝い結婚祝いの方々、そして、ここに出席をしている皆さんの、今後ますますのご繁栄とご健勝を祈念して乾杯。

会長報告

奥 敏則 会長

皆さんこんにちは。会長報告をさせていただきます。先週は、出張のためお休みをいただきました。河西副会長には、お世話をおかけいたしました。ありがとうございました。出張中も、日本全国天気が大変なことになっておりましたので、ちゃんと帰ってこられるか大変心配でしたが、1日前倒しで何とか戻ってくることができました。帰ってきてからの帯広も、少しずつ日が長くなって春の訪れがそう遠くないと感じながらも、連日の厳しい寒さの影響で、我が社は凍結の修理などで大忙しです。納まるまで、今週いっぱいばかりそうです。さて、「藤丸さん」の愛称で親しまれていた株式会社藤丸・藤丸百貨店が、皆さんご存じの通り、惜しまれつつも、一昨日の1月31日でひとまず122年の歴史に幕を下ろすという形になりました。くしくも、東京渋谷の東急百貨店本店が営業を終了し、安住紳一郎アナウンサーが藤丸の閉店を番組で取り上げるなどして、全国的にも大きなニュースとなりました。残念ながら、これで道内地場資本唯一の百貨店が無くなりました。バブル崩壊後のネット通販や郊外大型店の台頭、コロナの発生などが次々と追い打ちをかけ、自主再建を断念という形になりました。外商部の方が、我が家に何かあるごとに訪ねて来ていただき、また休みの日には、役員方による努力で建物の修復やペンキを塗っていたのを陰で見ただけに、とても残念でなりません。また、追い打ちをかけるように、昨日函館のテーオーデパートも8月で閉店することになったようです。私の藤丸の思い出は、小学校の低学年の頃の9丁目にあった時に、毎日のように自転車に乗ってゲームコーナーに小銭を持って通ったこと。切手を集めるのが趣味だったため、切手古銭コーナーで、欲しい高い切手を貯めたお小遣でやっと買ったこと。朝早くから寒い中、福袋を買った



会長 奥 敏則	副会長 高田 晃一	会場監督理事 長平 圭太	発行：広報委員会 (副)板倉 利幸
幹事 森 房明	副会長 河西 智子	プログラム委員理事 菊池 俊博	委員長 河合 敏 (副)所 輝泉



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル東館3階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

めに、家族で並んだこと。そして、乗っていった自転車が盗まれて困っていた時に、職員の方に優しく接していただいたことなど多くの思い出がありました。商工会議所のアンケートでは、回答した98%の企業が、藤丸の閉店が地域経済に影響を及ぼすと答え、懸念として挙げられていたのが更なる中心街の空洞化ということでした。地元経済界にとっても藤丸の再生は最重要課題となっているのです。その受け皿というか重責を担っていただくのが当クラブの米田会員であり、帯広クラブの村松会員です。二人は共に、「いわゆる」地元の人間ではないですが、十勝帯広が好きになって、十勝帯広のために役に立ちたいという思いで行動を起こしていただいたようです。これからも、清算や営業再開にはいろいろと難しい問題はあるようですが、頑張ってもらいたいと思います。村松氏は、「新しい藤丸は、百貨店には程遠い三十貨店ぐらいから始めます。」と笑っておられました。新しい会社や二人だけに任せるだけではなく、我々地元の人間がどれだけ関わって応援していけるのかも懸かっています。来年秋ぐらいには再開するのではと言われておりますが、是非とも、また新しい藤丸が十勝帯広のランドマークとなり、今まで通り人々から愛されるようになってもらいたいと思いますし、早く緑と青の包装紙に包まれた商品を手にしたいと思います。米田さん頑張ってください。

会務報告

森 房明 幹事

①帯広5RC・芽室RC・音更RC合同例会開催のご案内

日時 2月6日(月) 午後0時 会食
午後0時30分～1時30分 例会

場所 北海道ホテル

講師 中原 文雄 様 俳優

主な作品：映画「踊る大捜査線ムービー」
「るろうに剣心」

TV「なつぞら」「ちむどんどん」他

演題 チューホフの戯曲

「一人芝居 煙草の害について」

※尚、帯広東RC、2月7日(火)の繰上げ例会と致します。

帯広RC、2月8日(水)の繰上げ例会と致します。

帯広西RC、2月9日(木)の繰上げ例会と致します。

帯広北RC、2月10日(金)の繰上げ例会と致します。

②帯広南RC、2月13日(月)の例会は、休会と致します。

③帯広RC、夜間例会開催のご案内

日時 2月22日(水)午後6時30分

場所 ホテル日航ノースランド帯広

④帯広西RC、創立記念夜間例会開催のご案内

日時 2月24日(金)午後6時30分

場所 北海道ホテル

※アルコールがでますので、飲まれる方は運転をお控えください。

※尚、2月23日(木)の繰上げ例会と致します。

⑤例会終了後、定例理事会を開催致します。



ディネーターの服部陽子氏を講師に招き基調講演、テーブルディスカッション、懇親会が行われますので女性会員の皆様はぜひご参加頂ければと思います。また同日11日には帯広で第6分区分の新旧会長幹事懇談会が私ガバナー補佐の主幹で行われます。現会長様には今までの目標の経過報告をして頂きたいと思いますのでご用意の程お願いいたします。また欠席の際は代理の方をたてて頂き、新旧会長幹事様全員参加をお願い致します。なお当日は昼食をご用意しております。そしてその翌週18日には第6分区分のIMとなっております。出席義務者の方は3週連続の行事に参加の方もいらっしゃると思いますが何卒よろしくお願ひします。また、前回の訪問時にローターアクトの会員募集とチャリティーフリーマーケットの出品物のお願いを5クラブ以外のクラブにアクトの委員長を連れてお願いに上がりました。5クラブの皆様にもお願い申し上げます。アクトの新入会員の目標は15名を目指しております。身近な若者の推薦をお願い致します。またチャリティーフリーマーケットは6月2日、随時ご連絡頂ければ取りに来て頂けるそうです。宜しくお願い致します。また来年度の話ですが1月8日からアメリカオークランドで国際協議会が行われます。ゴードン R. マッキナリー国際ロータリー会長エレクトが2023-24年度会長テーマ「世界に希望を生み出そう」を発表されました。また2024-25国際ロータリー会長にステファニー A.アーチック氏が国際ロータリーの会長に選ばれております。着実に次年度に向けてスタートしております。ガバナー補佐の任務もあと半年です。何卒よろしくお願ひします。

ゲスト挨拶

IM実行委員長 関口 亘 様

IMの実行委員長をやることになりました。北クラブの関口です。宜しくお願い致します。私の会長年度はコロナ禍の中あまり活動ができなかったのもありまして、おまがやれということで引き受けさせていただきました。本日は3月18日開催のIMの参加、全員登録のお願いに参りました。コロナ禍の中開催するか、中止にするかを理事会の中でも色々な意見に分かれました。松原ガバナー補佐から懇親会も含めて通常にやりたいということでしたので開催を決意しました。コロナも決して収まったとは言えない状況ですが、実行委員会、北クラブ、芽室クラブ、ホテル側と一丸になって安全対策を十分に取って皆様方が安心してご参加頂けるように心がけて取り組んでおりますので多くの参加お待ちしております。当日は細川パストガバナーの財団のお話があります。また特別講演といたしまして、ベネゼエラ・ポリバル共和国特命全権大使の石川成幸様の講演を予定しております。懇親会友情の宴に関しても親睦委員長はじめ会員一同皆様に楽しんで頂ける内容のイベントも考えております。また松原ガバナー補佐の今年度のテーマ、ロータリー第6分区分の仲間他クラブを知ろうというテーマを上げております。懇親会の座席なども今までとは違う形を考えておりますので、たくさんのご参加をお待ちしております。



ゲスト挨拶

RI第2500地区第6分区分ガバナー補佐 松原 光一 様

本日は3月18日帯広北クラブがホスト、芽室クラブが子ホストで開催されますIMに登録参加のお願いに、関口IM実行委員長が同行されています。後ほど少々時間を頂きましてお話し頂きます。私からも慣例となっております会員登録の程よろしくお願ひします。また、同月3日には地区、分区分で行事がたくさんありますので紹介させていただきます。3月5日には紋別で鶴見ガバナーエレクトの基、会長エレクト研修セミナーPETSが開催されます。ご存知の通りこれを受講しなければ会長になれませんので、会長エレクトの方は必ず受講して下さい。翌週3月11日には旭川でRI2500地区女性の集い&研修会「Lady go」が開催されます。今回アメリカオークランド国際協議会のステージでスピーチをなさった22-23年度RI研修リーダー ロータリー公共イメージコー



委員会報告

天野 清一 会長エレクト

例年ですと3月の初めにお配りする委員会構成図を、今年度は小谷ガバナーノミニーを輩出するため、例年より早めて委員会構成図を作成しました。地区の委員にも当クラブから4名の方を、米山記念の方も委員長目指して長平会員が出て頂けるということで、私たちが1か月前に早めて頑張っていきたいと思ひます。また地区協議会の第3回が5月25日に行われる為、例年よりも早めて地区協議会を第1回と第2回とやらなければならないので、各委員長は委員会方針を早めて頂きたいと思ひしております。新たな委員会としてクラブ戦略委員会を作成しました。当クラブがこれからのように進んでいくかといことを歴代の会長幹事、次年度の飯田会長も含めて進めていきたいと思ひます。1回の担当例会がありますのでその場でご説明させて頂ければと思います。





今日は当委員会の第2回目の例会でございます。前回はJICA 帯広の木全代表に来て頂きましてお話し頂きました。今回2回目の例会は2月、ロータリーという平和構築と紛争予防月間ということですので、いつも2月に国際奉仕委員会がお時間を頂いております。今日は西クラブの国際奉仕のこれまでのあゆみとこれからという題材で金澤副委員長にお話を頂きます。ここ数年でございますが、新会員が多く入られており、新会員のオリエンテーションなどもコロナ禍ということもあり滞っているという現状でございます。ロータリーのイロハのイのお話も合わせまして、当クラブが長きに渡りモンゴルを支援してきたクラブの歴史を、佐藤会長年度の伊東肇国際奉仕委員長が取りまとめで頂いた貴重な資料を再度使わせて頂きまして皆様に再認識して頂けたらと思います。また今年度奥会長からはモンゴルの様に西クラブが継続的に取組める事業を考えて頂ければという使命をもらっています。今日は次年度国際奉仕委員長となる金澤副委員長に丸投げではございませんが、私の出番はこの辺りにさせていただきます。と思います。

「西クラブの国際奉仕のこれまでのあゆみとこれから」

国際奉仕委員会 金澤 宗一郎 副委員長



皆様こんにちは、本日は国際奉仕委員会の第2回目の例会ということで、西ロータリークラブの国際奉仕のこれまでの歩みとこれからについて説明していきたいと思っております。まずは、大先輩の皆様もいらっしゃいますし大変

恐縮ではございますが、今一度ロータリークラブにおける国際奉仕の位置づけを説明させていただきます。ロータリーには五大奉仕部門があります。ロータリー活動の基本は優秀な職業人であるロータリアンが毎週一回例会に出席してロータリーの哲学である奉仕の心を学び、それを通して親睦を深め、それによってさらに、奉仕の心を深め、充実させていくところにあります。例会出席によって形成された奉仕の心はロータリアン個人がそれぞれの家庭、地域社会、国際社会で実践に移すことになります。1927年、ベルギーのオステンドで開かれた国際大会で、奉仕部門を四大奉仕すなわち、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕（現在は青少年を加えて五大奉仕）に分けることが決定され、それまでロータリークラブの基本理念として一般奉仕概念と呼ばれていたものに職業奉仕という呼び名が正式に与えられました。その後のロータリーの奉仕活動は、これらの五大奉仕部門を中心に行われることになりました。先程の説明の通り五大奉仕にはクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕があり、クラブ奉仕は会員同士の関係を育み、積極的な会員増強計画を実行して活気あるクラブづくりを行うこと、職業奉仕は全てのロータリアンが倫理と高潔さをもって仕事に当たり職業の知識やスキルを社会のニーズ解決のために進んで役立てること、社会奉仕は全てのロータリアンが地域の人々の暮らしを豊かにし、より良い社会づくりにこうけんすること、国際奉仕は国際的なプロジェクトでボランティアしたり海外のパートナーと共同活動を通じて、平和と相互理解を推進すること、青少年奉仕はローターアクト、インターアクト、ロータリー青少年指導者養成プログラム、ロータリー青少年交換などを通じて青少年や若い世代の社会人がリーダーシップ能力を伸ばせるよう支援することということで、今年度の奥会長の基、五大奉仕の活動が積極的に行われていると認識しています。国際奉仕と歴史的経緯について説明させていただきます。国際奉仕は第4奉仕部門で国際理解、親善、平和を推進するために実施するすべての活動を言います。初期のロータリーには今日の人道的奉仕活動を主体とした国際奉仕の概念はありませんでした。しかし、第一次大戦中の1917年頃より米国やカナダ、ヨーロッパのロータリークラブが各地の避難民や傷病兵、復員してくる軍人に対するボランティア活動や物資援助を行うなど歴史的背景を受けて、「奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人および地域社会のリーダーの世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進する」という国際奉仕の概念が、1922年に綱領の第6項目

として正式に明文化され現在に至っています。2度にわたる世界大戦を通して世界平和を願うロータリアンは、1945年には米国会衆国務省から要請を受けて、49名が国連憲章の原案作成作業に参加したといわれています。ロータリーの歴史の中でも特筆すべき国際奉仕活動でしょう。個々のロータリアンの責務ですが、世界で紛争や戦争など有事の際には、国際ロータリーは中立を守る立場にあり、当該国のロータリークラブとロータリアンは、それぞれ国法を遵守しなければならず、これらの国々の間では友情や親睦を築くことは困難になります。つまり世界の恒久的平和の推進を願うロータリーの国際奉仕活動も、有事の際には限界があるという矛盾をはらんでいるのです。しかし、ロータリアンは手続要覧89頁に記載されている個々の責務を忘れてはいけません。9つの責務があります。

1. 愛国主義にとらわれず、自分が、国際理解と親善と平和を推進するという責務を共に負っているものとみなすべきである。
2. 国家的または人種的優越感によって行動しないようにすべきである。
3. 他国民と強調する共通の基盤を求め、これを育成すべきである。
4. 理想、言論、集会の自由、迫害と侵略からの解放、欠乏と恐怖からの解放を享受できるように、個人の自由を守る法律と秩序を擁護すべきである。
5. どこかが貧困であれば、全体の豊さを危うくすると認識し、あらゆる国の人々の生活水準を高めようとする行動を支援すべきである。
6. 人類に対する正義の原則を高くかざすべきである。この原則を基本であり、世界的なものでなければならないと認識すべきである。
7. 国家間の平和を推進しようと常に務め、この理想のためには個人的犠牲を払う覚悟をすべきである。
8. 実践されれば、必ず豊かで充実した人生をもたらす、倫理的・精神的な基本水準が存在すると認識しながら、国際親善の一步として、あらゆる他の人々の信念を理解する心をかき立て、これを実践すべきである。
9. 国家間の関係が緊迫しているところで活動やプログラムを実施する場合には、適切な注意を払うべきである。

となっております。次にロータリーを通じてのプロジェクトの資金調達についてですが、プロジェクトの原資となる資金は、まずロータリアン個人やクラブが提供しなければなりません。ロータリー財団から国際財団活動資金(WF)、あるいはロータリー財団から地区に供与される地区財団活動資金(DDF)と地区補助金(DSG)を利用することも可能となっております。その中でどの様な形で今までロータリーが国際奉仕の活動を行ってきたかという実践例を紹介したいと思います。実践例1としてモンゴルのロータリークラブから、医療機器を現地の国立病院小児病棟に授与するというプロジェクトへと支援の要請がきました。当地区のロータリアンは現地を視察、緊急に支援が必要であると判断しましたが、当該医療器材がモンゴルでは購

入できないことが分かりました。帰国後、ロータリーである小児科医の協力で、日本国内で海外仕様の機材を調達することができるようになり、台湾や韓国の姉妹クラブとマッチング・グラントを申請し、器材の購入と運送を手配しました。片や、モンゴルのロータリーの努力で、物資の輸入税免税措置が受けられるようになりました。プロジェクトに拠出した全クラブの会員が贈呈式典に出席し、多くの貧しい子供達が適切な治療を受けられるようになったという効果を目の当たりにしたという事例がありました。実践例2として、タイのロータリークラブから、歴史的に人身売買が繰り返される北部の貧しい地域で、子供達の教育支援というプロジェクトへ支援要請がきました。子供達が健康で、しっかり学業に専念し、自ら人身売買の犠牲者にならぬよう支援するのが目的です。現地のホストクラブと当地のクラブに加えて、新潟や九州のロータリークラブも参加し、山岳民族で学校まで数キロの道のりを通う子供達に日本の中古自転車と、学校で安心して飲める清潔な水を提供することを決定しました。現地ホストクラブは地域の公立校約80校の水質調査を実施し、協力してマッチング・グラントを申請、中古自転車と貯水タンクや浄水器を60校あまりの学校に寄贈しました。贈呈式には全ての協力クラブの会員が参加し、子供達と共においしい水を味わい、自転車による通学が楽しいという嬉しい声も聞きましたということです。実践例3として、生後3日の乳児から45歳までの130名の孤児や障がい者の教育や生活の支援を行っているベトナムの孤児院では、貧困により入居者が増加し続けています。施設は、周辺住民の寄付やわずかな家畜である鶏の卵や、果樹園の収穫品を販売することによって運営されていますが、収入が不十分だということが視察の結果判明しました。ベトナムにはロータリークラブは無いため、国際財団活動資金は使えませんでした。クラブの拠出金と地区補助金(DSG)を利用して、牝牛、鶏及び資料を提供しました。その結果、生まれた子牛、多くの卵や鶏を販売できるようになり、施設の運営に貢献できましたという事例がありました。ここまでの国際奉仕の概念であり実践例でありました。次に帯広西ロータリークラブが今まで国際奉仕活動を行ってきたか、特に10年に渡り継続支援を行ってきたモンゴルとの歴史について振り返りたいと思います。2006年から帯広西ロータリークラブはモンゴルとの関係を築きました。当時モンゴルへ行ったことのある岡田会長のご経験の基、当時の会長方針で「少しでも例年以上のパワーを国際奉仕活動に注ぐ」と明示した方針を受け、具現化したのが当時の川田国際奉仕委員長の実行力により10年間モンゴル支援が続いたということでもあります。第1回目の訪問には、当時の岡田会長、尾藤副会長、越智幹事、川田国際奉仕委員長で行かれまして、当時の会報にモンゴルの支援の考え方、どういった支援をするか、その考え方の基準として5つ挙げられていました。

1. 長期に渡って奉仕できること
2. その成果が確認できること
3. 確認するにあたってこちらの安全が確保できること
4. 現時点での援助に関する重要性
5. 帯広にその国に関連する人材が駐在していること

この5つの基準の中でモンゴル支援が行われておりました。こちらが活動年表になりますが、帯広にその国に関連する人材が駐在しているというところでは、ハイルハンバグ子ども応援奨学金の会の小林志保様が当時いらっしゃいまして、毎年例会を開催しモンゴルの現状であったり今後の支援の在り方についての例会が毎年行われておりました。またこの中の支援金には10年間60万円の支援があり、総額370万円の中で約20%を帯広西ロータリークラブが占めていたということで小林様からも本当にありがたいというお言葉を会報の中から拝見しました。そして2018年には当時の石原会長の基、第2回の訪問が行われました。当時は石原会長、岡田会員、茨木会員、萱場会員の4名で

行かれたということです。会報を拝見すると、会長報告で石原会長から1つ目の目的として、体育用マットと音楽プレーヤーを支援した第12学校の訪問、モンゴルのタルミRCへの訪問、観光と体験、と記載されています。2018年ー2019年佐藤会長、伊藤国際奉仕委員長の時には、ハイルハンバグ子ども応援奨学金の会の小林志保様をお招きし、10年間支援してきたモンゴル活動を振り返り、お金の支援ではなく今後違う形で繋がりを持っていくことを確認しあいました。また西ロータリーとして新たな国際奉仕の在り方を考える年になりました。2回目の例会では、トロント大学に通っておりまして伊藤国際奉仕委員長の娘さんとテレビ電話でつなぎ、海外在住の日本人から見た国際化について議論をしました。3回目の例会では、帯広畜産大学 大学院生博士課程の留学生3名から、十勝で実践できる国際交流についてプレゼンしていただきました。2019年ー2020年若林会長、奥田頼昌国際奉仕委員長の時には十勝、帯広で働く外国人の現状、職種、国別、性別などの実態を把握し、ロータリーとして何ができるのか一年かけて活動をされました。2020年ー2021年佐々木会長、中川国際奉仕委員長の時には新型コロナウイルスの蔓延に伴い、今後西ロータリークラブの国際奉仕についてどのように考えていくか、例会を通じて進める予定が大幅に変更せざるえない状況になりました。2021年ー2022年小谷会長、高田国際奉仕委員長の時も新型コロナウイルスの蔓延に伴い、例会等が中止になり大幅な変更を余儀なくされました。今回の振り返りのまとめですが、モンゴルと10年続いた国際奉仕活動が節目を迎え、新たな国際奉仕を模索した西ロータリークラブ。しかしながら新型コロナウイルスの蔓延により例会の中止、また海外渡航も厳しい制限がかかり、国際奉仕について考える機会が失われました。しかしながら、5月からコロナウイルスの感染症法上の位置づけを2類から5類への移行が決定。本格的にアフターコロナへの新たなフェーズに入ります。次回の第3回目の例会では継続的に進める国際奉仕活動を示していきます。